

北区 女性だより

# Azalea

アゼリア



- 女性の時代を爽やかに先駆ける  
周藤晴子さん (赤羽西3丁目)
- 紙面づくりの楽しさを知った3日間
- 女性センターが装いも新たにオープンします。
- INFORMATION
  - ・アゼリアプラン推進区民会議
  - ・「平和祈念週間」へのご参加、ご協力ありがとうございました。
  - ・「生涯学習フェスティバル」へのお誘い
  - ・「婦人週間講演と音楽の集い」ご案内
- 聞き書き自分史  
加藤容子さん (上中里1丁目)
- 区民が訪ねる区の施設  
浮間さくら荘



## 女性の時代を爽やかに先駆ける

JR東日本期待の女性総合職2期生

周藤 晴子さん (赤羽西3丁目)

JR東日本(東日本旅客鉄道株式会社)が総合職としていわゆるキャリアをめざす女性の採用を始めて5年。現在、約1500人の総合職の女性社員が勤務しています。

「仕事をしていく上で、女性は男性の補助なんだっていう意識が無いんですよ。ですから、勤めやすい職場ですね。まわりの男性はコピーやお茶汲みなども自分でしています。ごく自然ですし、本来それが普通のことなのかも知れませんね」

平成元年度入社した周藤さんは、これまで総務部を振り出しにさまざまな部を転勤し、会社機構を学んでいます。東大では工業化学を専攻、化学実験や分析とはあまり関係のない仕事との出会いもあるようですが、「いつも新入社員の気持ちで」取り組んできました。

新入社員教育の時には、松戸車掌区に配置され車掌として常磐線の車内放送も経験。「マイクを持つとハイになってしまっ、ついつい長く喋って『長すぎる』って注意されました。明るく積極的、けれども『あまりガンバルぞ』っていう気持ちをもっていないんです。男の人だと、大学をでてから社会で働いていくというのは、当然だと思ってますよね。私も、そういう感じでした。とききましたから……」。いつも自然体です。

周藤さんが誕生するまで公立小学校の教員を勤め、その後、子育てを終えてから講師として職場へ復帰し、昨年まで勤務されていたお母さんの影響が大きかったからかも知れません。

「現在、会社顧問をしている父とは、仕事のことについて話すことはありませんが、母は、『ずっと勤めなさいね』という感じで励ま

してくれま

す。いざ結婚となるとまだまだ保守的になりがちな日本の男性が多い中、「結婚後は退職してほしい」といわれたら、「その内辞めるけど、いま区切りがつかないから」とだまし続ける、というのを考えているんです」とか。

昭和63年には、「めつたにできない経験ができるかな」と応募した結果、ミス・北区に理解あるパートナーとの出会いは「まだ」ということですが、仕事も家庭も子育ても楽しみながら自分流にしながらやり遂げていく、そんな新しい時代の女性像を予感しました。





## 紙面づくりの楽しさを知った3日間

女性政策課が「PTA広報紙づくり」講座を開催しました。

5月20・26日、7月27日の3回にわたり、女性政策課主催の「PTA広報紙づくり」講座が開かれました。参加者は区内小学校PTA広報委員のみなさんと、のべ170人が机を囲み熱心に講師のお話を聞きました。

女性政策課では、こうした情報誌づくり講座などを開催しながら、区民参加でさらに「アゼリア」の内容を充実させていく計画です。



「PTA広報紙づくり」講座に参加して

東十条 柴田良子  
赤羽西 堀内美智子  
赤羽西 伊勢みどり

昨年年度、初めて  
広報委員を経験した立  
場での参加ですが、教育委  
員会や各新聞社主催の講座は、  
これまでもいくつありました。  
しかし、今回の講座は、初めてPTA広報に  
携わることになった女性を暖かく応援し、紙

面づくりの楽しさを経験してもらうことをね  
らいとしていました。この視点がユニークで、  
とてもうれしく感じました。

第1回は、広報紙の意義、作成手順。第2  
回は、実際に原稿用紙を使つての原稿づくり  
や校正等。第3回は、参加者のみなさんによ  
るフリートーク。

講師の鈴木先生やプロの稲川さん（この方  
もスタートがPTA広報とはオドロキ）の  
お人柄が伝わる楽しいお話と、紙とペンを片  
手の体験学習。わかりやすく役に立つ内容で  
した。

第3回目は、夏休みに入っていたこともあ  
り、参加する学校が少ないのでは……、とい  
う不安もありました。でも、12校からの参加  
があり、机を囲みサンドイッチなどをほおば  
りながら、和やかなムードの中で、一学期広  
報紙発行後の反省会を行いました。

昨年一年間、PTA広報委員を引き受け、  
この4月に今年度の方々にバトンタッチをし  
たばかり。ある意味では、ほっとした状態で  
この講座に参加し、また、お手伝いさせて頂  
きました。ですから、昨年の自分を振り返っ  
て見るような、そんな気持ちでした。

誰しも、広報の使命に少なからず責任と不  
安を抱くものです。ほとんどの人が予備知識  
もないからです。その気持ちを相互に共有し  
理解しあうことが、この企画の一番のねらい  
だったのでないでしょうか。

そして参加された方々が、それぞれの思い  
を文字に託して、納得のいく活動をして頂け  
れば、この講座が大変意義深いものとなるで  
しょう。



# 女性センターが装いも新たに オープンします

—女性の社会参加の促進と地位向上のために—



北区女性センターは、女性の文化教養施設であった従来の婦人センターに変わり、平成4年4月に、女性の社会参加の促進と地位向上を目的として設置されました。ここでは、女性問題の学習及び女性相互の交流の機会と場を提供することとしており、北区における男女平等推進のため、様々な事業を実施することとなりました。

今後の事業に必要な施設改修・備品整備を終え、装いも新たに、平成4年10月よりオープンいたします。

以下、女性センターの概要を報告します。

## 女性センターの主な事業

### 1 自立の促進

女性が社会的・経済的に、より自立するための支援として、女性問題等に関する各種講座、講習会を実施します。

☆具体的事業☆

#### ・女性大学

区の審議会等政策・方針決定の場に女性が参画することを目的に女性問題や区政の課題に関する講座を開講します。

平成4年度は11月から2月にかけて13回（定員30名）実施  
講座内容は「女性問題とは何か」「女性と法律」「女性の視点を区政に」「区政の課題」など

#### ・各種講座・講演会

女性の地位向上や社会参加に必要な知識、技術等広く各分野にわたる講座を開講します。例えば、女性学入門講座、カウンセリング講座、話し方講座、ワープロ講座、生活文化講座など。

#### ・教養講座

和裁・洋裁・料理・茶道・花道の講座を開講し、必要な知識や技術を習得するとともに、交流の促進を図ります（定員30から60名）



5F 第4学習室



## 2 交流の促進

女性センター利用者相互の交流、発表、情報交換の場を提供します。  
 平成4年度については、今後女性センターが様々な交流の場となるための  
 事業として次のようなフェスティバルを開催します。

### ☆具体的事業☆

・女性センター開設フェスティバル——ひと 出会い 喜び——

開催日 平成4年10月2日、3日

開催内容 1 講演等

○基調講演「社会参加とネットワークづくり」  
 日経新聞編集委員 藤原房子氏

○アゼリアアフラン1周年記念フォーラム「女性の眼で創る」  
 十文字学園女子短大助教授 亀田温子氏

豊島区女性史編集指導員 長谷幸江氏

ビデオレビディレクター 山下知恵子氏

○講演「山下さんちの物語」→男女共生社会の問題これから編  
 講師 宝井琴枝氏

○男の料理教室

明治屋クッキングスクール 橋口政久氏

2 展示等

○先駆者の肖像展

○教科書—いま・むかし

○手作りコーナー

○交流コーナー

○女性センター「愛称」募集 など

※本フェスティバルの企画、運営にあたっては区民参加に基づく実行委員会が行いま  
 す。また、来年度以降もこのようなフェスティバルを実施するとともに、あらゆる  
 機会をとらえて交流の場を設定していきます。

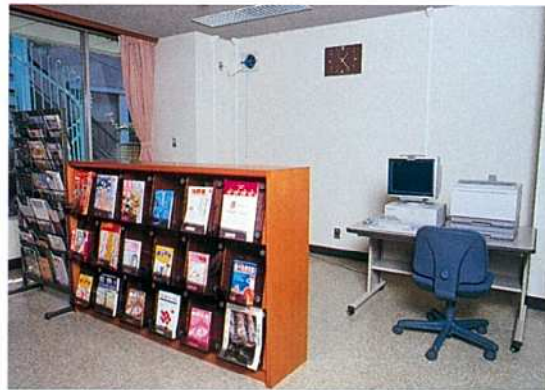
## 3 女性情報サービスの提供

女性問題に関する図書、資料の収集・提供を行うとともに、関係機関とのネットワー  
 ク化を図ります。

### ☆具体的事業☆

・情報コーナーの運営（女性問題に関する図書資料の収集・貸し出し）  
 ・国立婦人教育会館データベースとのネットワーク化

1F 情報コーナー



B1 相談室



## 4 女性総合相談の実施

女性の自立や問題解決のために適切な助言により、自らが問題解決の糸口を見つけ  
 るための相談を実施します。

### ☆具体的事業☆

・専門相談員によるカウンセリング相談

毎週水曜日と金曜日 午後1時から5時まで

・（但し平成4年11月以降に実施）

・テーマ別相談

健康、育児、就労等テーマを設定して専門家が相談に応じます。

（平成4年度は1つのテーマを絞り実施）



## アゼリアプラン推進区民会議

女性行動計画「アゼリアプラン」の効果的推進を図るため、学識経験者、各種団体、区民代表など12名で構成する区民会議が設置されています。

平成3年10月以降、3回にわたり開催され、「女性センターの設置について」「女性の審議会委員の積極的登用について」などをテーマとして、さまざまな意見が出されました。

## 北区アゼリアプラン推進

### 区民会議委員

- 亀田 温子 十文字学園女子短期大学助教授
- 河口 通良 北区私立保育園園長兼会長
- 北島 裕子 オリニック青年協議会役員
- 白井 典子 北区代表監査委員
- 高田 明正 北区社会教育指導員
- 竹腰 里子 たはた生活学校委員長
- 水野 鉄治 自治会連合会会長
- 厚美 薫 区民代表（会社社員）
- 豊田 栄子 区民代表（ボランティア団体）
- 山下 陽枝 区民代表（女性団体）
- 山崎 幹雄 区総務部長
- 鈴木 省五 区女性政策課長

「平和祈念週間」へのご参加、ご協力ありがとうございました。

昭和20年8月から47年目の夏、今年も女性政策課では、大勢の区民の方々とともに平和祈念事業に取り組みました。

### \* 平和祈念の夕べ

日時…8月6日(火)  
講演…「今、私たちにできること」

——先人に学ぶ——

講師…東京外国語大学助学長 長 幸男

音楽…「平和へのハーモニー」

出演…クロスロード・シンガーズ

### \* 折鶴による平和祈念

区内の小・中学生、幼稚園、保育園、児童館、そして大勢の区民の皆さんの平和への祈りが込められた折鶴70,000羽が区民プラザの「天空」に舞いました。

また、中央には北区職員による208羽の大きな鶴と47の平和の環が飾られました。



## 「生涯学習フェスティバル」へのお誘い

### ——これからの女と男——

#### 講演&歌とギター

平均寿命は年々延びています。高齢社会をどのように生きるのか、地域社会との係わりの中から探っていきます。

日時…11月26日(木)1時30～3時30分

会場…滝野川会館大ホール

講演…「人生80年時代」

——これからの女と男——



講師…沖藤典子(作家)

音楽…すずきたけお

(秋桜・無縁坂・百万本のバラ外)  
申込…往復はがきに住所、氏名、電話番号を記入して11月10日(火)まで。

問い合わせ先及び申込先

〒114 王子本町1-15-22

女性政策課計画係

☎内22221、22222

## 「婦人週間講演と音楽のつどい」

### 【案内】

日時…平成5年3月27日(土)

1時30分～4時00分

会場…北とびあさくらホール

講演…婦人週間基調講演

音楽…大庭照子

「Song For You」

——美空ひばりをうたう——

2月申旬より申込受付いたします。



## 聞き書き自分史

義父が亡くなり、夫が亡くなりとはたばたと重なったものですから、じゃあ、私がするしか無いじゃないかということだ。

加藤 容子さん（上中里1丁目）

中世、大田道灌以前の時代に北区一帯を支配していた豊島氏の居城跡だ、ともいわれる平塚神社。広い境内には、イチヨウをはじめさまざまな木々が枝を広げ、厳肅な神域を形成しています。

自動車販売会社のOLをしていた加藤さんが、ここに嫁いだのは、昭和41年のことでした。夫は大学で英語を教えていました。神職ではなかったし、神社に嫁いだという気持ちは全くありませんでした。



結婚後、「まだ子供もなくてひまだったので、こうした世界をちょっとのぞいてみようかな」と、それに夫がひとりっ子でしたので、後継者も必要かなと思って「国学院大学の講習を受けはじめましたが、長女を出産。神職の資格を得るまでには至りませんでした。つづいて生まれた長男が、小学校4年生になりすっかり手を離れたのを期に、神職の資格を得るのに必要な残りの講習を乃木神社で受け、ついに神官に。昭和57年からは、高齢のお義父さまを助けて、平塚神社の祭事などに活躍していました。

昭和60年、お義父さまが亡くなり、相次いで夫も亡くなりました。「義父の手伝いをしていましたし、私は気持ちの上でも抵抗なくすつと後継を務められました。当時、女性の神職者があまりいませんでしたので、氏子



のみなさんの方が戸惑われたようですね。地鎮祭や大きなビルの落成式などの神事の依頼をうけると、「女ですけど、いいですか」と、念をおしたそうです。中には、「男の方がいい」という企業もあつたりしましたが、「この頃では、うちは神官が女だということを見なさんご存知ですから、奇異な目で見られることは無くなりましたね」

伝統と格式を持つ由緒ある神社、そして地域の要として氏子のみなさんの心のよりどころ



ろでもある神社、それを維持経営していくのは、並みのことではありません。今年には社務所を改築するなど、忙しい日々を重ねる加藤さんですが、趣味はゴルフ。そして、2年前からは年1度、時間をやり繰りして海外旅行を楽しんでいます。

社会人と大学生に成人したお子さんには、「しっかりと外の世界を見た上で、私の後を継ぎなければそうしてほしい。井の中の蛙になつてほしくないんです」ときっぱり。

近頃、境内にセミをとりにくる子供たちを見かけなくなったそうで、「この頃の子供たちは、おとなに管理されることに慣れて自然と遊ぶことをしなくなりましたね。子供たちがもつと境内で遊びたいのなら、閉鎖している裏山も開放してもいいと思ってるんだけど」地域社会のコミュニケーションの場でもある神社、自由な女性の視点で発想したふれあいの場としても期待できそうです。



# 区立 特別養護老人ホーム

## 浮間 さくら荘

おとしよりの心の輝きを大切にしたい

玄関を入るとすぐに、色とりどりの手作り工芸品やお習字の作品が立ち並び、来訪者の目を楽しませてくれます。まるでカルチャースクールのような明るさと清潔さを持つこの施設が、浮間さくら荘です。

特別養護老人ホームというのは、心や体に障害を持ち、常時、介護が必要であるにもかかわらず、在宅介護が困難な方々に入所して頂く老人ホームです。北区内にはこと王子3丁目の光照苑の二ヶ所があります。

十年、二十年前の庶民感覚では、老人ホームというのは血縁に恵まれない



浅草寺へ遠足 (平成3年6月)

人のためのものでした。しかし、一生かけても家一軒持てない昨今の住宅事情や、核家族化の中で、老人ホームで老後を送るという選択肢は、私たちにとても身近なものになり始めています。

そこで、区内の主婦三人が勇躍、さくら荘を訪ねました。当日はちょうど月に一度のお誕生会の日にあたっていたため、ハッピーバースデーのにぎやかな歌をBGMに秋山施設長さんの説明を拝聴したのち、館内を案内して頂きました。

この特色は、入所・通所を問わず、生き生きとした時間をおとしよりに過ごして頂きたいという職員の方々の願いが、種々の企画や設備に浸透しているということでした。4階のサンルームでは月一、二回はホーム喫茶も開かれ、書道・陶芸などのクラブ活動が充実しています。昼食は入所者全員が、車いすを動員して食堂まで出向くなど、寝たきりにさせない心意気を肌で感じました。

また、この面会時間は午前八時から午後九時までです。「いつでも、何回でも面会に来て欲しい」と施設長さんのお話にもありました。そのためにも町中の駅の近くという立地条件が必要

だったとのこと。「余儀なく病院に入院された方も、最後はここで見取りたい。」というお話とともに、印象に残りました。

・浮間3-11-26

☎ 3558-1558 3

お誕生会 (平成4年5月)



納涼祭 (平成4年8月)



## 編集後記



\*最近「女性問題が変わってきた」といわれます。従来の女性の権利拡張にとどまらず、男性の生き方を含めた検討の必要性が説かれています。アゼリア編集の際にも参考にしてまいります。

(S・S)

\*久しぶりに原稿用紙とにらめっこ。ほどよい刺激になりました。とかく書くことを忘れがち。たまには手紙を書くのかな…。

(M・I)

\*北区に移り住んで8年が過ぎました。アゼリアのお手伝いをさせて頂き、行政を身近に感じる今日この頃です。

(R・S)

\*自立した女の後ろには自立した男あり…。夫の一人立ちを気長に支援しつつアゼリアへの参加を楽しんでいます。

(M・H)

### アゼリア

北区女性だより

●発行/東京都北区

●企画・編集/総務部女性政策課

☎ 3908-1111

☎ 2221-2222

●制作協力/鯨吼社